

B 17 パターンメイキングにおけるパーソナルコンピュータの利用 (第1報)
 縫製を考慮した婦人衣服基本形態パターンの作成
 福山市立女短大 ○増田智恵 広島県立福山織工試 古川昇

【目的】 パーソナルコンピュータ (以後パソコンと略す。) を使用して、婦人服製作過程の一工程であるパターンメイキングの省力化を図ろうとした。本報では、縫製時における各部分の出来上り線のつながりやダーツ形状を考慮し、実用的な基本形態パターン (胴部、袖、スカート) の作成を試みた。さらに、縫い代についても検討したのであわせて報告する。

【方法】 1. パソコンの機器構成 (図1) 2. 製図方法 主にFIT方式を用いて多数の人体計測寸法からパターンの主要点を求めた。ダーツは畳んだ状態を設定して形状を決定した。ネックライン等の曲線部分は、パターン寸法に対応した補助点の位置を回帰式から推定、各縫目線やダーツを縫合した状態での次式スプライン曲線により主要点、補助点を接続して描いた。縫い

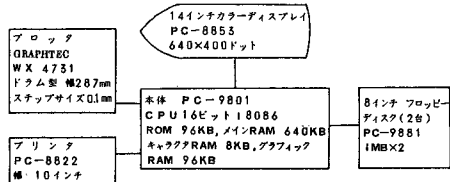


図1 パーソナルコンピュータの機器構成

代は、主要点、補助点から垂直方向に縫い代のための点を求め、これをつないだ。

【結果】 1. パソコンを利用することで、適合性が高く、かつ縫製も考慮した実用的なパターンが短時間で作成可能となった。製図時間は、胴部3分、袖2分、スカート2分である。2. 曲線部分は、補助点の位置をパターン寸法から統計的に予測し、曲線両端の接線ベクトルの方向を指定できる3次式スプライン曲線で描くことが有効と考えられた。なお部位によっては回帰式の寄与率が低く、説明変数等について検討の余地があった。この事象解決されれば、縫い代を付けたパターン作成の意義もさらに高くなるものと思われる。